令和7年度小浜市立口名田小学校スクールプラン

【児童の実態】
・明るく元気で素直、真面目で意欲的
・自律性、創造力、レジリエンスが低い

【教職員に求められる意識・姿勢】
・すべての子どもを学びからはなさない
・すべての子どもを置き去りにしない
・子どもを主役にし、すべての子どもが自分らしく輝ける毎日にする

＜理念＞　自律と対話

＜学校教育目標＞　つながり　学ぶ　元気な子

【小浜市教育方針】
郷土を愛し、よりよい小浜と日本の未来を創造しようとする児童生徒の育成をめざす。

【めざす学校像】
ひとりの幸せ　みんなの幸せ　今の幸せ　未来の幸せ
・子どもの命と心を守る「安心・安全」な学校
・家庭・地域と互恵関係にある「地域とともに」ある学校
・生き生きと「学びを楽しむ Well-being」な学校

めざす児童像
- 心を育み、自他の幸せを育む子
- 命を守り、たくましく伸びる子
- 対話を楽しみながら重ね、深く探究する子
- ふるさとを愛し、愛される子

重点目標

心
①個人や全体の目標達成に向けて、主体的に判断し行動することで、責任感と自己有用感を高める
②多様な人々と積極的に関わる中で、違いを認め合い、お互いを高め合える人間関係を築こうとする児童を育成する。
③学校生活のすべてにおいて自他の人権を尊重し、人権を守るために進んで行動できる児童を育成する。

体
①目標を持って最後まで粘り強く運動に取り組み進んで体力を伸ばそうとする児童の育成
②健康な生活を送るために必要な知識や生活習慣を身につけ、進んでよりよく生きようとする児童の育成
③自己存在感を確立し、自己受容を促し、「自分が好き」と思える児童を育成する。

知
①主体的に対話し、自他の考えを明確に理解しようとする児童を育成する。
②仲間と課題を共有し、自律的にその解決に向かって情報を整理分析表現しようとする態度の育成
③児童の自律的な取組により生きてはたらく知識・技能の形成をめざす。
④自ら進んで読書し、想像を楽しむとともに、考えを深めたり広げたりしようとする態度の育成

ふ
〇ふるさとをよりよくするために地域と課題を共有し、自律的にその解決に貢献しようとする態度を育成する。
〇地域資源を活かした体験活動を充実させ、地域の大人と共に活動を創り、地域と協働して取り組む。
〇ふるさとのみんなのためにできることを考えたり行ったりすることができた。(90%以上)

具体的取組

①学校行事において自分たちで企画・運営する場面を多く設定し、活動を多面的、多角的に評価し、振り返りを行い、次の活動へ志を持って取り組めるようにする。
②委員会、縦割り班を活用し、業間活動の取り組みを拡大することで、互いの交流を増やし、自他共に認め合える人間関係を形成する。
③人権尊重と多様性の受容を基盤とした授業づくりや学級経営、生徒指導を行うとともにいじめ・不登校の未然防止に全教職員で連携して取り組む。

①業間活動の取り組みに個人目標や集団目標を設定し、自分の力を最大限発揮しようとする意欲を向上する。
②メディアのルールを設定し、いきいき週間や眠育・食育に取り組む中で、健康的な生活習慣を自ら進んで送ろうとする自律性を高める。
③学習支援や教育相談活動を通してそれぞれの児童に寄り添い、個々の良さや得意なことを伝え認めることで、自己肯定感を育み、自分を大切に思える気持ちを育てていく。

①他者の意見の大切な部分を聴き分けたり、自分の意見と対比しながら聞いたりした後に、必ず言葉で反応できるようにする。
②みんな調べの場面では「わからない」や「ちがい」を始まりに意見を重ねる話し合いの展開に導く。
③個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指して授業づくりを行うとともに、学期末テストやタイピングコンテストで自律的な学習を促すための枠組みづくりを研究する。
④朝読書や週末読書、読み聞かせなどを通して多様な読書体験を数多く味わわせる。

教育ＤＸ

①自律的に情報を選択・整理し、適切に活用しようとする児童を育成する。
②デジタルツールを使い、自ら工夫して自分の考えをわかりやすく伝えようとする児童の育成。

①授業づくりにおいて、ICT や交流によって得られた情報を自律的に活用し、考えを深めたり広げたりする場面を設ける。
②デジタルツールを活用して情報を発信する機会を多く設定し、自己評価・他者評価をもとに自分の考えをわかりやすく伝えるために試行錯誤して工夫できる過程を単元計画に採り入れる。

①いろんな人の考えを調べて自分の考えが正しいかどうかを確かめることができた。(90%以上)
②タブレットを使って自分の意見や考えをわかりやすく伝えるために工夫することができた。(90%以上)

数値目標

①いろいろな活動(学校行事)で、すすんで自分の考えを述べたり、仲間の意見を聞いたりしながら計画することができた。(90%以上)
②縦割り活動で、班のメンバーと協力しながら、お互いのことを思いやって取り組むことができた。(90%以上)
③自分のことも周りの人のことも大切にすることができた。(90%以上)

①体育や業間活動では、自分でめあて(目標)を考えて、難しかったり苦しかったりしても最後までがんばろうとした。(90%以上)
②メディアと上手に付き合い、健康的な生活(睡眠・食事)を送ろうとがんばった。(90%以上)
③以前よりも自分のことが好きと思えるようになった。(90%以上)

①友達の意見をよく聞いて、自分の言葉で反応を返すことができた。(90%以上)
②友達と一緒に解決したいことについて意見を出し合い、楽しみながら学習を深めることができた。(90%以上)
③ドリルパークやワークなど自分に合った学習方法を選び、目標達成のために粘り強く頑張った。(90%以上)
④いろいろな本を読んで読書が好きになった。(90%以上)

業務改善

【方針】思考の穴に陥らない・クリティカルシンキング・ラテラルシンキングの活用
【重点目標】
① 業務 DX で教職員が子どもたちと向き合う時間を創出する
② 自律的にライフ＆ワークバランスを調整する教職員の育成

【具体策】①－1単純なデジタルへの置き換えではなく、付加価値を創造する方法を模索する。 ①－2クラウド活用の知識を身に着け、適切に活用する。①—3デジタル技術活用による情報共有コストと重複作業の削減。
②－1教師の幸せのあり方を考えるチャット上研修の実施。②－2会議の効率化と時間短縮。 ②－3一斉退勤日の徹底　毎週水曜日17:00
【数値目標】 時間外在校時間月45時間未満の全員達成を目指す